

研究プロジェクト

「宗教が文化と社会に及ぼす生命力についての研究－禅をケーススタディとして－」

Research project: Vitality of religion that activates culture and society

－Zen as a case study－

実施期間： 2010～2012 年度（3 年間）

Term of the project: 2010-2012 fiscal years (3 years)

研究代表者： 天野 文雄 国際高等研究所副所長

Project leader: Dr. Fumio AMANO, Vice director, IIAS

研究目的要旨：

宗教は信仰という人々の精神活動の実践を中心とするが、それにはまた、半ば必然的に、「思想」と呼びうる側面が濃厚に備わってもいる。その「思想」は人々の信仰を深めるだけでなく、かつては同時代の文化や社会にも小さからぬ影響を及ぼしてきた。本研究プロジェクトは、こうした宗教の持つ「思想」の力を「生命力」と呼び、それが文化や社会にいかなる刺激を与え、新しい文化や社会の創出に寄与したかを、日本中世（鎌倉、室町時代）の禅を例に考究しようとするものである。日本中世において、禅から刺激を受けた分野は広範にわたるが、本プロジェクトでは、美術（絵画、彫刻、書）、芸能（能、狂言、茶）、文学（和歌、連歌、漢詩文）、建築、政治といった分野ごとに、禅の「生命力」と新しい世界の発見、開拓について、これまでの研究史を整理し、それをふまえて、新しい知見を提示し、概して手薄だったこのテーマを掘り下げて、右の各分野に新しい視点を導入しようとする。

研究目的：

①背景：

研究代表者は能楽（能と狂言）の歴史的研究や演劇的研究を専門として、長年、能楽の研究に携わってきたが、その過程で、能の大成者たる世阿弥の制作になる能やその能楽論に禅が深いレベルで影響を及ぼしていることを知り、さらに、そのような現象が世阿弥や能だけではなく、絵画、書、彫刻等の美術、和歌、連歌、漢詩等の文学、茶等の芸能、作庭、建物等の建築といった芸術諸分野、さらには思想、政治、欧米の現代をも含めた社会生活にも認められることに想到して、禅の持つ「芸術や社会を触発する力（本研究では「生命力」と呼ぶ）について、その諸相を究明する必要性を痛感するにいたった。

②必要性：

細分化が加速度的に進行している現代の人文研究にあって、最も求められているものといえば、たとえば「何のための研究か」という巨視的な視点からの問いかけがあろう。本研究が解明しようとしているような禅の持つ力については、上記の各分野においても多かれ少なかれ考究されてはいるが、それには巨視的な視野がなく、ために上記各分野の禅にかかる研究においては、ある常識的な理解に安住する結果になっているのではないかと思われる。そのような状況が本研究によって変えられることによって、上記各分野の研究が思想というレベルで深められることが期待される。

③方針：

本研究では、上記の人文・社会学諸分野における「禅の生命力」の実態を整理・総括して、それを各分野における共通認識とすることを目標とする。そのためには、上記各分野の第一線で活躍している研究者による、当該分野における最先端の報告が不可欠となる。

Objectives:

- ① Background: As a scholar of No-gaku (Noh and Kyogen), I have been taking a historical and theatrical approach in my research. In the process, I have realized that Zen philosophy profoundly influences Noh (which was established by Zeami) and its theory. Furthermore, the influence of Zen can be found not only on Zeami and Noh, but also on the fine arts (painting, calligraphy, and sculpture), literature (Japanese poetry such as waka and renka, and Chinese poetry), the performing arts (tea ceremony), architecture (gardening and building), philosophy, politics, and social life including a contemporary western life. Consequently, I have fully realized the necessity to analyze the power of Zen (in this research, I call this power “vitality”) that stimulates arts and society.
- ② Necessity of this Research: Since contemporary research on humanities has been ramified rapidly, the most essential issue, for instance, is to realize the objective of the research from a macroscopic point of view. The power of Zen, which this research will unravel, has been already analyzed in each field that I mentioned above. However, the proceeding studies did not include macroscopic views. As a result, these previous research remain in common understanding of Zen. By challenging this present condition, I expect to broaden the research of the fields mentioned above on the philosophical level.
- ③ Approach: The aim of this research is to organize and summarize the nature of “the vitality of Zen” in each field of humanities and sociology, and to share common understanding of Zen. For this purpose, it is inevitable to gain pioneering research on the concerned fields.

キーワード：禪、生命力、世阿弥

Key Word: Zen, Vitality, Zeami

参加研究者リスト：19名（◎研究代表者）

氏名	職名等
◎天野 文雄	国際高等研究所副所長
荒木 浩	国際日本文化研究センター研究部教授
飯塚 大展	駒沢大学仏教学部教授（2010年度途中から参加）
クリスティアン	ウイッテルン 京都大学人文科学研究所教授（2010年度途中から参加）
大田 壮一郎	龍谷大学文学部非常勤講師
太田 亨	愛媛大学教育学部准教授
大谷 節子	神戸女子大学文学部教授（2011年度から参加）
川本 慎自	東京大学史料編纂所中世史料部門助教
恋田 知子	国文学研究資料館機関研究員
神津 朝夫	帝塚山大学非常勤講師（2010年度途中から参加）
重田 みち	早稲田大学演劇博物館招聘研究員（海外滞在）
鈴木 元	熊本県立大学文学部教授
高橋 悠介	神奈川県立金沢文庫学芸員（2012年度から参加）
中本 大	立命館大学文学部教授
西平 直	京都大学大学院教育学研究科教授
西山 美香	花園大学大学院仏教学専攻非常勤講師
野村 俊一	東北大学大学院工学研究科助教
原田 正俊	関西大学文学部教授

福島 恒徳 花園大学文学部教授

研究活動実績 :

2010 年度 :

2010 年度は、下記のように、予定通り 2 回の研究会を開催した。本プロジェクトはきわめて多様な分野の研究者で構成されているが、その点を考慮して、今年度は、参加研究者全員が各分野の禅との関係についての研究状況を報告し、次年度以降の各メンバーによる新しい研究のための共通認識を醸成した。その結果、参加研究者は「禅」をめぐる、まことに新鮮な知見を豊富に得ることとなり、新しい学術の萌芽という感触をメンバー全員が持ったと思われる。多くの参加者からは、「たいへん有意義な研究プロジェクト」という評価をいただいているが、代表者も同じ手ごたえを感じている。そのことは、2 回の研究会で、欠席者が 1 人も出なかつたこと、「その他研究者」が比較的多かつたことが端的に物語つていよう。

研究会開催実績 :

第 1 回 2010 年 9 月 3 日～4 日 (於 : 高等研)

第 2 回 2010 年 12 月 17 日～18 日 (於 : 高等研)

話題提供者 : 2 名

今泉 淑夫 東京大学名誉教授

末木 文美士 国際日本文化研究センター教授／東京大学名誉教授

その他の参加者 : 3 名

ボイカ エリット ツィゴヴァ

聖クリメント・オフリドスキソフィア大学教授／国際日本文化研究センター客員外国人研究員

大谷 節子 神戸女子大学文学部日本語日本文学科教授

尾本 賴彦 相愛大学共通教育センター非常勤講師

2011 年度 :

2011 年度は予定どおり、2 回の研究集会を開催した。初年度である 2010 年は、参加研究者が属する、美術、歴史、建築、文学、演劇各分野における、禅とのかかわりをめぐる研究状況の報告を中心として、本プロジェクトの基盤固めを行ったが、それを受け、2011 年は、各参加研究者による新しい研究成果の報告がなされた。報告は参加研究者全員が行ったが、2 人のゲストスピーカーの講演とあわせ、各分野における、新しい視点、新しい発想という点で貴重な成果がえられた。また、メンバー以外の参加者も広がりをみせており、その点も、本プロジェクトの意義を物語っている。

研究会開催実績 :

第 1 回 2011 年 9 月 2 日～3 日 (於 : 高等研)

第 2 回 2011 年 12 月 16 日～17 日 (於 : 高等研)

話題提供者 : 2 名

上田 純一 京都府立大学文学部教授

熊倉 功夫 静岡県立文化芸術大学学長／国立民俗学博物館名誉教授

その他の参加者：11名

恵阪 悟	羽衣短期大学非常勤講師
岡田 登貴	放送大学大学院修了
岡本 文音	宝塚大学大学院修了
尾本 賴彦	元相愛大学非常勤講師
土屋 圭子	駒澤大学大学院修士課程
中尾 薫	大阪大学大学院文学研究科専任講師
長田 あかね	京都造形芸術大学非常勤講師
藤岡 道子	聖母女学院短期大学教授
桃崎 有一郎	立命館大学専任講師
芳澤 元	大阪大学大学院院生
Molly Valor	スタンフォード大学大学院／国際日本文化研究センター

2012年度：

本年度は第1回の研究集会を予定通り、8月30～31日の2日間にわたり高等研において行った。恒例のゲストスピーカーは日本中世美術史が専門で雪舟の研究で知られる島尾新氏にお願いし、研究プロジェクトメンバーからは8本の報告があった。そのうち、1本はドイツ留学中の重田みち氏からの音声と画像による報告であった。第2回の研究集会は、2月16日～17日の2日間高等研で行われた。初日は花園大学の野口善敬氏のゲスト講演、仏教学の末木文美士氏をお招きして、メンバー全員参加の座談会「日本中世の文化と禪－末木文美士氏に聞く－」があり、2日目はプロジェクトメンバー11人からの報告があった。

研究会開催実績：

- 第1回 2012年8月30日～31日 (於：高等研)
第2回 2013年2月16日～17日 (於：高等研)

話題提供者：3名

島尾 新	学習院大学文学部教授
末木 文美士	国際日本文化研究センター教授
野口 善敬	花園大学国際禪学科教授

その他の参加者：6名

岡本 文音	高野山大学客員教授
尾本 賴彦	能楽研究家
澤野 加奈	大阪大学大学院修了
中村 健史	京都大学研究員
長田 あかね	京都造形芸術大学非常勤講師
藤岡 道子	聖母女学院大学教授

Achievement:

2010 fiscal year:

This year, all members of this interdisciplinary research project reported the process of their ongoing researches related to Zen. These reports will become the basis of the upcoming original report. This project that consists of scholars from various fields related to Zen is more fruitful than

I expected. In fact, all members attended both of the two research meetings. I believe that this project will contribute to the aim of the International Institute for Advanced Studies.

2011 fiscal year:

In 2011, we had the research meetings twice. In 2010, the members in the field of art, history, architecture, literature, and theatre reported the process of their ongoing researches related to Zen in order to form the basis of this project. In 2011, all participants presented the results of their innovative researches. Not only did all members report on their researches, but also two guest speakers delivered lectures; consequently, fruitful outcomes were obtained. The fact that non-members also participated in this project clearly indicates the significance of this project.

2012 fiscal year:

This year, the first research meeting was held for two days in August at the International Institute for Advanced Studies. The guest speaker was Arata Shimao, a researcher of Sesshu at Gakushuin University, and eight members of the project reported their researches. In February, the second research meeting was held in which Yoshitaka Noguchi, a scholar of Chinese Zen at Hanazono University, and eleven project members reported their researches. At this meeting, a round-table discussion with Fumihiko Sueki, a scholar of Buddhist at the International Research Center for Japanese Studies, was also successfully held.

研究活動総括 :

本研究プロジェクトは、日本中世(鎌倉、室町時代)において、文化芸術や社会に多大な影響を及ぼした「禅」の持つ「生命力」ともいべき「触発する力」に着目して、それが同時代の文化芸術や社会にいかに働きかけ、その結果、そこにいかなる「創造」の達成をみたかを究明することを目的として、3年間のプロジェクトとして組織されたものである。本年度は本プロジェクトの最終年度にあたるので、ここにこの3年間の研究活動の総括として、本研究プロジェクトの活動状況、それによって得られた成果や学術的意義について、高等研の基本理念にも照らして報告する。

【1、プロジェクトの活動状況】

本プロジェクトは参加研究者が1年に1回の報告を義務づけて始まったが、その原則は100パーセント順守された。現時点で通算5回を数える研究集会における報告者と報告題目は以下のリストのとおりで、その数は52である。また、本プロジェクトでは、参加研究者の報告とは別に、毎回ゲストスピーカーを1人招くことになっていたが、これも予定どおりに実行された。報告内容は、初年度は本プロジェクトのテーマにかかわる各参加研究者のこれまでの研究実績、プロジェクトのテーマにかかわる当該分野の研究史の概要とし、2年度以降はメンバーが関心を持った禅にかかわる問題の報告とした。なお、参加研究者の報告時間は1人1時間とし、そのうち半分ていどを質疑応答にあて、ゲストスピーカーの報告には90分をあてたが、そこでは常に活発な質疑が交わされた。また、参加研究者は当初は19名だったが、最終的には21名で、これに加えて、毎回、5名前後のその他研究者の参加があった。

〔2010年度、第1回研究集会〕

- 報告① 天野文雄「能と禅についての研究概観」
- 報告② 西山美香「日本禅宗と舍利」
- 報告③ 原田正俊「室町殿の室礼と禅宗文化」
- 報告④ 恋田知子「禅宗の仮名法語と物語草子」
- 報告⑤ 野村俊一「鎌倉初期禅院建築の意匠と社会」
- 報告⑥ 西平直「世阿弥『伝書』における稽古について—禅哲学との関係から」

■ゲスト講演

今泉淑夫／東京大学名誉教授「室町文化における禅に関する少考」

[2010年度、第2回研究集会]

報告①太田亨「日本中世禅林における杜甫と禅—虎闘師鍊の詩話に着目して—」

報告② 川本慎自「中世禅僧の経済活動とその知識をめぐって」

報告③ 荒木浩「『徒然草』『沙石集』をめぐる禅宗的環境」

報告④ 福島恒徳「頂相と詩画軸—宗教としての禅、文人としての禅僧—」

報告⑤ 大田壮一郎「中世武家政権と宗教」

報告⑥ 鈴木元「禅林と和歌・連歌の接点をめぐる幾つかの問題」

報告⑦ 神津朝夫「茶道史における禅の位置づけとその問題点」

報告⑧ 重田みち「世阿弥と臨済宗—香西精「世阿弥の禅的教養」再検—」

報告⑨ 中本大「五山文学研究の現在」

■ゲスト講演

末木文美士氏（国際日本文化研究センター教授／東京大学名誉教授）「「中世禅への視座—榮西を中心として—」

[2011年度、第1回研究集会]

報告①原田正俊「五山禅院の伝来文書と文書管理」

報告②クリスティアン ウィッテルン「禅とは何か?—燈史資料にみられる禅宗を中心に—」

報告③福島恒徳「禅の絵画と画贊—画僧と詩僧—」

報告④天野文雄「能における禅的趣向—《融》と《松浦》をめぐって—」

報告⑤神津朝夫「茶禅一味の形成」

報告⑥重田みち「世阿弥能楽論の「一心」—宗密以後の中国禅の応用—」

報告⑦鈴木元「禅と和歌」

報告⑧西山美香「南宗と日本の五山」

報告⑨飯塚大展「林下曹洞宗における相伝史料について—曹洞五位説を中心に—」

■ゲスト講演

上田純一氏(京都府立大学教授)「禅宗と医学」

[2011年度、第2回研究集会]

報告①西平直「禅の哲学的検討—井筒俊彦における「無心」理解をめぐって」

報告②中本大「五山禅僧と人名辞書—『名庸集』の周辺」

報告③神津朝夫「茶禅一味について—前回報告の補足—」

報告④大田壮一郎「鎌倉後期鎮西の北条得宗庶流と禅宗」

報告⑤野村俊一「禅院仏殿の行事と建築構成」

報告⑥大谷節子「世阿弥と『夢中問答』」

報告⑦川本慎自「室町期の五山僧と東国の農事認識」

報告⑧太田亨「日本中世禅林における権力と禅—中期の場合—」

報告⑨恋田知子「物語草子に見る禅」

報告⑩荒木浩「方丈記の結構と禅的解釈をめぐって」

■ゲスト講演

熊倉功夫氏(静岡文化芸術大学学長)「江月宗玩と茶の湯」

[2012年度、第1回研究集会]

報告①西平直「「無心」概念の思想史的検討」

報告②飯塚大展「禅籍抄物における和歌の引用について—林下曹洞宗における相伝史料を中心として」

報告③重田みち「世阿弥の「初心を忘るべからず」と中国三教一致の禅」

報告④天野文雄「能と禅—『諸法実相』をめぐって—」
報告⑤恋田知子「物語草子に見る禅—『はいかひ』絵巻続考—」
報告⑥高橋悠介「伝白雲慧驚曉撰『由迷能記』について」
報告⑦原田正俊「五山禪林の年中行事と室町殿」
報告⑧西山美香「画贊・画題に見る漢故事受容」

■ゲスト講演

島尾新氏(学習院大学教授) 「詩画軸再考」

[2012年度、第2回研究集会]

報告①荒木浩「徒然草と法語」
報告②クリスティアン ウィッテルン「禅における規定と反則に関する一考察」
報告③大田壯一郎「13・14世紀における宗と国家—宗論をめぐって—」
報告④太田亨「日本中世禪琳における杜甫と禅—後期の場合—」
報告⑤大谷節子「世阿弥と禅—『山姥』をめぐって—」
報告⑥川本慎自「『中叟和尚偈』にみる東福寺僧と山名時熙の交流」
報告⑦神津朝夫「茶の湯と宗教性」
報告⑧鈴木元「古今伝受、切紙、禅」
報告⑨中本大「禪籍のゆくえー『錦繡段』に関するいくつかの問題ー」
報告⑩野村俊一「中世禪院の社友空間と風景生成」
報告⑪福島恒徳「日本禪林における法系と絵画」

■ゲスト講演

野口善敬氏(花園大学教授) 「なぜ法系図を重視するのか」

■座談会

日本中世の文化と禅—末木文美士氏に聞く—

【2、プロジェクトの活動によって得られた成果あるいは学術的意義】

本研究プロジェクトは、報告一覧からも明らかのように、きわめて多彩な分野の研究者によって構成されている。その分野は当初の計画では、美術(絵画、彫刻、書)、文学(和歌、連歌、漢詩)、芸能(能、狂言、茶)、建築(作庭、殿舎)、社会(政治、社会、現代)とし、カッコ内の「小分野」も対象とする予定であったが、メンバーの研究領域によっては全「小分野」をカバーできず、最終的には対象とならなかつた「小分野」もある。すなわち、「美術」は絵画についての報告に偏り、彫刻と書については報告がなかった。「文学」では予定どおり和歌、連歌、漢詩の報告がなされた。「芸能」では能と茶の湯に報告が集中し、狂言についての報告がなかった。「建築」はこれまで殿舎についての報告だけだったが、作庭については来月に報告が予定されている。「社会」のなかの「現代」は、主として欧米の状況を念頭に、現代社会における禅思想の実態を考えようとしたものだが、これ自体が大きなテーマでもあったので、代わりに、現代思想における禅の受容についての報告に切り替えた。「政治」「社会」については、歴史研究者からの報告があった。なお、メンバーには禅の研究者も参加しており、禅研究自体の問題についての報告とともに、上記の各報告における禅理解の妥当性についても、適宜コメントがあった。以下、上記各分野における議論あるいはそこで得られた知見について、その概要を述べる。

「美術」については、禅僧が深くかかわった絵画と詩文で構成される「詩画軸」や、著名な禅僧の肖像画である頂相についての報告が複数あった。そこでは、従来の美術史研究における詩文の読解力不足についての美術史研究者からの指摘があり、その克服をも目的とした、近年の詩画軸研究会の活動成果の一端も紹介された。

「文学」については、和歌、連歌と禅の思想、わが国において杜甫の詩が禅的精神の精髓とされるようになった時期と経緯、五山文学の衰退期を室町末期とする通説への疑問、『徒然草』『沙石集』の禅的環境、物語草子における禅思想の浸透など、最先端の報告があった。

「芸能」については、世阿弥の能や芸論における禅思想とその機能、茶の湯と禅との関係を象徴する「茶禅一味」の批判的再検討がなされた。

「建築」については、わが国の寺院建築における禅宗様式の成立が東アジアという視点から論じられた。第6回には禅宗寺院の庭園特有の「境致」についての報告が予定されているが、これは世阿弥の能「融」ともかかわる問題である。

「社会」については、室町幕府の宗教政策における禅の位置、室町時代における唐物趣味の背景禅院における文書管理、禅僧の経済活動といった多彩な問題が報告された。また、舍利信仰と禅との密接な関係についての報告もあった。

「現代思想」に関する報告としては、井筒俊彦など近代の思想家における「無心」についての報告があつたが、本プロジェクトの目的に照らすならば、この方面的研究は相当に重要であるとの認識を持った。

これ以外に、禅の研究者からは、中国禅についての報告や、曹洞宗の相伝史料にみる正偏五位説の様相や、同史料における和歌の引用などについての報告があつた。前者では、曹洞宗特有の説と思われていた正偏五位説が臨済にも浸透しているという、興味深い指摘もあつた。

以上のように、本プロジェクトは中世の文化芸術と社会という広範にわたる分野を対象としているのだが、そのこと自体は、これまでの共同研究一般に認められる現象で、とくにユニークなことではない。しかし、本プロジェクトのように、日本中世の文化芸術や社会各分野の研究者が「禅」を共通項として、この3年間、新たな問題に挑戦し、意見交換をするような場はたぶんなかったものと思う。その結果、メンバーは自分がその研究との関係で関心を持っていた「禅」が、他の分野においてもさまざまなかたちで影響を及ぼしていたことを知り、自身の関心が孤立した「点」ではなく、「面」であることを理解したのであるが、そのことは各メンバーは言うまでもなく、各メンバーが属する分野にとっても、大きな意味があると思う。その効果はすぐに現れるものではないとは思うが、代表者としての体験で言えば、この3年のあいだに、思いがけず能と禅との関係についての論をいくつも執筆できたのは、知らず知らずのうちに、本プロジェクトの恩恵を受けていた結果だと思う。他のメンバーもたぶん同じような体験をしているのではないかと思われるが、本プロジェクトのそのような影響は、今後は時の経過とともに顕在化してくるものと思う。そのとき、本プロジェクトの目的のひとつである、現在の学術諸分野に進行著しい研究の細分化の克服があるていど実現することになろう。

以上のような、この3年間における本研究プロジェクトの活動は、国際高等研究所がめざしている、異分野間の交流を通じて「学術の芽を見つけ、育てる」という理念に沿つたものであり、その実践であったと確信する。

Whole Achievement:

The aim of this research project is to explore Zen, which has an enormous impact on arts and society in the medieval period (the Kamakura and Muromachi periods), focusing on its “stimulating power” which should be called “vitality,” and how Zen influences arts and society at that time, and what kind of “creativity” exists. For this purpose, this project consists of twenty-one researchers in the fields of fine arts, literature, performing arts, architecture, history, and Zen. At each meeting, one guest speaker was invited. For the last three years, six research meetings were held over twelve days. The topics that were examined and discussed, as given on the attached paper, were remarkably diverse. Through these research activities, the influences of Zen on arts and society have been captured from a macroscopic point of view. The result of this project will not only enrich each project member’s own research, but also influence researches on the fields in which project members are affiliated. Through this three-year project, I believe that ramified researches have been unified to some extent and the policy of the IIAS, “Find the seeds for academic

cultivation,” has been achieved through an interaction of researchers in different academic disciplines.

国際高等研究所 研究プロジェクト
「宗教が文化と社会に及ぼす生命力についての研究－禅をケーススタディとして－」
2010年度第1回研究会 プログラム

開催日時：2010年 9月3日（金） 13:00～17:00
9月4日（土） 9:30～16:00

開催場所：国際高等研究所 216号室（2F）

研究代表者：天野 文雄 国際高等研究所企画委員／大阪大学名誉教授
担当所長・副所長：川北 稔 副所長

出席者：(15人)

研究代表者 **	天野 文雄	国際高等研究所企画委員／大阪大学名誉教授
参加研究者 (13人)	荒木 浩	国際日本文化研究センター研究部教授
	大田 壮一郎	龍谷大学文学部非常勤講師
	太田 亨	愛媛大学教育学部准教授
	川本 慎自	東京大学史料編纂所特殊資料部門助教
**	恋田 知子	国文学研究資料館機関研究員
	重田 みち	早稲田大学演劇博物館客員研究員
	鈴木 元	熊本県立大学文学部教授
	中本 大	立命館大学文学部教授
**	西平 直	京都大学大学院教育学研究科教授
**	西山 美香	花園大学文学部非常勤講師
**	野村 俊一	東北大学大学院工学研究科助教
**	原田 正俊	関西大学文学部教授
	福島 恒徳	花園大学文学部教授

**：スピーカー

話題提供者 今泉 淑夫 東京大学名誉教授
(ゲストスピーカー)
(1人)

プログラム

9月3日（金）

13:00～17:00

1. 研究プロジェクトの趣旨（天野文雄）
2. メンバー自己紹介（全員）
3. 報告（1）「能と禅についての研究概観」（天野文雄）
4. ゲスト基調講演「室町文化における禅に関する少考」（今泉淑夫）

9月4日（土）

9:30～16:00

1. 報告（2）「日本禅宗と舍利」（西山美香）
2. 報告（3）「室町殿の室礼と禅宗文化」（原田正俊）

一昼食一

3. 報告（4）「禅宗の仮名法語と物語草子」（恋田知子）
4. 報告（5）「鎌倉初期禅院建築の意匠と社会」（野村俊一）
5. 報告（6）「世阿弥『伝書』における稽古について—禅哲学との関係から」（西平 直）

※ 報告は1本60分（報告30分、質疑30分）、基調講演は80分（講演50分、質疑30分）

※ 今回の報告は、基本的に最新の報告ではなく、本テーマにかかわる各分野の研究状況（研究史）をお話しいただきます。

国際高等研究所 研究プロジェクト
「宗教が文化と社会に及ぼす生命力についての研究－禅をケーススタディとして－」
2010年度第2回研究会 プログラム

開催日時：2010年 12月 17日（金） 13:00～17:00
12月 18日（土） 9:00～16:00

開催場所：国際高等研究所 216号室（2F）

研究代表者：天野 文雄 国際高等研究所副所長
担当所長・副所長：天野 文雄 副所長

出席者：(21人)

研究代表者	天野 文雄	国際高等研究所副所長
参加研究者 ** (19人)	荒木 浩 飯塚 大展 クリスティアン ウィッテルン	国際日本文化研究センター研究部教授 駒澤大学仏教学部教授 京都大学人文科学研究所准教授
** 大田 壮一郎	龍谷大学文学部非常勤講師	
** 太田 亨	愛媛大学教育学部准教授	
** 川本 慎自	東京大学史料編纂所特殊資料部門助教	
恋田 知子	国文学研究資料館機関研究員	
** 神津 朝夫	帝塚山大学人文学部非常勤講師	
** 重田 みち	早稲田大学演劇博物館客員研究員	
** 鈴木 元	熊本県立大学文学部教授	
** 中本 大	立命館大学文学部教授	
西平 直	京都大学大学院教育学研究科教授	
西山 美香	花園大学文学部非常勤講師	
野村 俊一	東北大学大学院工学研究科助教	
原田 正俊	関西大学文学部教授	
** 福島 恒徳	花園大学文学部教授	
大谷 節子	神戸女子大学（能楽研究）教授	
尾本 賴彦 ボイカ エリット	親愛女学院大学（能楽研究）講師 ツイゴヴァ 聖クリメント・オフリドスキソフィア大学教授／ 国際日本文化研究センター客員外国人研究員	

** : スピーカー

話題提供者 末木 文美士 国際日本文化研究所センター教授
(ゲストスピーカー)
(1人)

プログラム

12月17日（金）

13:00～17:00

1. ゲスト講演 末木 文美士氏「中世禪への視座—榮西を中心として—」
(講演 60分+質疑応答 30分)
2. 報告① 太田 亨「日本中世禪林における杜甫と禪—虎闘師鍊の詩話に着目して—」
(講演 30分+質疑応答 30分)
3. 報告② 川本 慎自「中世禪林の経済活動とその知識をめぐって」
(講演 30分+質疑応答 30分)
4. 報告③ 荒木 浩「『徒然草』『沙石集』をめぐる禪宗的環境」
(講演 30分+質疑応答 30分)

18:00～懇談会（於、けいはんなプラザホテル『ラ・セーヌ』）

12月18日（土）

9:00～16:00

1. 報告④ 福島 恒徳「頂相と詩画軸—宗教としての禪、文人としての禪僧—」
(講演 30分+質疑応答 30分)
2. 報告⑤ 大田 壮一郎「中世武家政権と宗教」
(講演 30分+質疑応答 30分)
3. 報告⑥ 鈴木 元「禪林と和歌・連歌の接点をめぐる幾つかの問題」
(講演 30分+質疑応答 30分)

【12:00～13:00 休憩】

4. 報告⑦ 神津 朝夫「茶道史における禪の位置づけとその問題点」
(講演 30分+質疑応答 30分)
5. 報告⑧ 重田 みち「世阿弥と臨濟宗—香西精「世阿弥の禪的教養」再検—」
(講演 30分+質疑応答 30分)
6. 報告⑨ 中本 大「五山文学研究の現在」
(講演 30分+質疑応答 30分)

国際高等研究所 研究プロジェクト
「宗教が文化と社会に及ぼす生命力についての研究－禅をケーススタディとして－」
2011 年度第 1 回研究会（通算第 3 回）プログラム

開催日時：2011 年 9 月 2 日（金） 12：40～17：30
9 月 3 日（土） 9：30～16：30

開催場所：国際高等研究所 216 号室（2F）

研究代表者：天野 文雄 国際高等研究所副所長
担当所長・副所長：天野 文雄 副所長

出席者：(28 人)

研究代表者	天野 文雄	国際高等研究所副所長
参加研究者 (メンバー) (16 人)	荒木 浩 飯塚 大展 クリスティアン・ウィッテルン	国際日本文化研究センター研究部教授 駒沢大学仏教学部教授 京都大学人文科学研究所准教授
	大田 壮一郎	龍谷大学文学部非常勤講師
	太田 亨	愛媛大学教育学部准教授
	大谷 節子	神戸女子大学文学部教授
	川本 慎自	東京大学史料編纂所中世史料部門助教
	神津 朝夫	帝塚山大学非常勤講師
	重田 みち	早稲田大学演劇博物館客員研究員
	鈴木 元	熊本県立大学文学部教授
	中本 大	立命館大学文学部教授
	西平 直	京都大学大学院教育学研究科教授
	西山 美香	花園大学文学部非常勤講師
	野村 俊一	東北大学大学院工学研究科助教
	原田 正俊	関西大学文学部教授
	福島 恒徳	花園大学文学部教授

**：スピーカー

話題提供者 上田 純一 京都府立大学文学部教授
(ゲストスピーカー)
(1 人)

その他参加者 (10 人)	恵阪 悟 岡田 登貴 岡本 文音 尾本 賴彦 土屋 圭子 中尾 薫	羽衣短期大学非常勤講師 放送大学大学院 修了 宝塚大学大学院 修了 元相愛大学非常勤講師 駒澤大学大学院修士課程 大阪大学大学院文学研究科専任講師
------------------	--	--

長田 あかね 京都造形芸術大学非常勤講師
藤岡 道子 聖母女学院短期大学教授
桃崎 有一郎 立命館大学専任講師
芳澤 元 大阪大学大学院修士課程

プログラム

9月 2日（金）

12：40～12：50 開会・事務連絡

12：50～14：20 【ゲスト講演】 上田純一氏「禅宗と医学」

14：20～14：30 ■休憩■

14：30～15：30 [報告①] 原田正俊氏「五山禪院の伝来文書と文書管理」

15：30～16：30 [報告②] クリストゥイアン・ウイッテルン氏「禅とは何か？
—燈史資料にみられる禅宗を中心に—」

16：30～17：30 [報告③] 福島恒徳氏「禅の絵画と画贊 一画僧と詩僧ー」

9月 3日（土）

9：30～10：30 [報告④] 天野文雄氏「能における禅的趣向（その1）—《融》と《松浦》
をめぐってー」

10：30～11：30 [報告⑤] 神津朝夫氏「茶禅一味説の形成」

11：30～12：30 [報告⑥] 重田みち氏「世阿弥能楽論の「一心」—宗密以後の中国禅の
応用ー」

12：30～13：30 ■昼食、打ち合わせ■

13：30～14：30 [報告⑦] 鈴木元氏「禅と和歌」

14：30～15：30 [報告⑧] 西山美香氏「南宗と日本の五山」

15：30～16：30 [報告⑨] 飯塚大展氏「林下曹洞宗における相伝史料について—
曹洞五位説を中心にして」

16：30 ■閉会■

国際高等研究所 研究プロジェクト
「宗教が文化と社会に及ぼす生命力についての研究－禅をケーススタディとして－」
2011年度第2回研究会（通算第4回）プログラム

開催日時：2011年 12月 16日（金） 13:00～17:30
12月 17日（土） 9:30～17:30

開催場所：国際高等研究所 216号室（2F）

研究代表者：天野 文雄 国際高等研究所副所長
担当所長・副所長：天野 文雄 副所長

出席者：(23人)

研究代表者	天野 文雄	国際高等研究所副所長
参加研究者 **	荒木 浩	国際日本文化研究センター研究部教授
(メンバー)	クリスティアン・ウイッテルン	
(15人)		京都大学人文科学研究所准教授
** 大田 壮一郎		龍谷大学文学部非常勤講師
** 太田 亨		愛媛大学教育学部准教授
** 大谷 節子		神戸女子大学文学部教授
** 川本 慎自		東京大学史料編纂所中世史料部門助教
** 神津 朝夫		帝塚山大学非常勤講師
** 恋田 知子		国文学研究資料館機関研究員
重田 みち		早稲田大学演劇博物館客員研究員
鈴木 元		熊本県立大学文学部教授
** 中本 大		立命館大学文学部教授
** 西平 直		京都大学大学院教育学研究科教授
西山 美香		花園大学文学部非常勤講師
** 野村 俊一		東北大学大学院工学研究科助教
原田 正俊		関西大学文学部教授

**：スピーカー

話題提供者 熊倉 功夫 静岡県立文化芸術大学学長
(ゲストスピーカー)
(1人)

その他参加者	Molly Valor	スタンフォード大学大学院/日文研
(6人)	岡田 登貴	放送大学大学院修了
	岡本 文音	高野山大学特任講師
	中尾 薫	大阪大学文学研究科専任講師
	長田 あかね	京都造形芸術大学非常勤講師
	芳澤 元	大阪大学大学院文学研究科博士後期課程

プログラム

12月 16日 (金)

13:00 ~13:10 開会 (天野 文雄)

13:10 ~14:40 【ゲスト講演】熊倉 功夫氏「江月宗玩と茶の湯」

14:40 ~15:00 休憩

15:00 ~16:00 [報告①] 西平 直氏

「禅の哲学的検討—井筒俊彦における「無心」理解をめぐって」

16:00 ~17:00 [報告②] 中本 大氏「五山禪僧と人名辞書—『名庸集』の周辺」

17:00 ~17:30 [報告③] 神津 朝夫氏「茶禪一味について」(前回の補足)

12月 17日 (土)

9:30 ~10:30 [報告④] 大田 壮一郎氏「鎌倉後期鎮西の北条得宗庶流と禪宗」

10:30 ~11:30 [報告⑤] 野村 俊一氏「禪院仏殿の行事と建築構成」

11:30 ~12:30 [報告⑥] 大谷 節子氏「世阿弥と『夢中問答』」

12:30 ~13:10 昼食

13:10 ~14:10 [報告⑦] 川本 慎自氏「室町期の五山僧と東国の農事認識」

14:10 ~15:10 [報告⑧] 太田 亨氏「日本中世禪林における杜甫と禪—中期の場合—」

15:10 ~15:30 休憩

15:30 ~16:30 [報告⑨] 恋田 知子氏「物語草子に見る禪」

16:30 ~17:30 [報告⑩] 荒木 浩氏「方丈記の結構と禪的解釈をめぐって」

17:30 閉会

国際高等研究所 研究プロジェクト
「宗教が文化と社会に及ぼす生命力についての研究－禅をケーススタディとして－」
2012年度第1回研究会（通算第5回）プログラム

日 時：2012年 8月 30日（木） 13:00～17:30
8月 31日（金） 9:30～17:00

場 所：国際高等研究所 216号室（2F）

出席者：(22人)

研究代表者	** 天野 文雄	国際高等研究所副所長
参加研究者	荒木 浩	国際日本文化研究センター研究部教授
	** 飯塚 大展	駒沢大学仏教学部教授
	太田 亨	愛媛大学教育学部准教授
	大谷 節子	神戸女子大学文学部教授
	川本 慎自	東京大学史料編纂所中世史料部門助教
	** 恋田 知子	国文学研究資料館機関研究員
	神津 朝夫	帝塚山大学非常勤講師
	** 重田 みち	早稲田大学演劇博物館招聘研究員（ドイツ滞在：音声参加）
	鈴木 元	熊本県立大学文学部教授
	** 高橋 悠介	神奈川県立金沢文庫学芸員
	** 西平 直	京都大学大学院教育学研究科教授
	** 西山 美香	花園大学大学院仏教学専攻非常勤講師
	野村 俊一	東北大学大学院工学研究科助教
	** 原田 正俊	関西大学文学部教授
	福島 恒徳	花園大学文学部教授

**：スピーカー

話題提供者（ゲストスピーカー）

島尾 新 学習院大学文学部教授

その他参加者	岡本 文音	高野山大学特任教授
	尾本 賴彦	能楽研究家
	澤野 加奈	大阪大学大学院修了
	長田 あかね	京都造形芸術大学非常勤講師
	藤岡 道子	聖母女学院短期大学教授

プログラム

8月30日（木）

13:00～13:10 開会（天野 文雄）

13:10～14:40 【ゲスト講演】島尾 新氏「詩画軸再考」

14:40～15:00 休憩

15:00～16:00 ［報告①］西平 直氏「「無心」概念の思想史的検討」

16:00～17:00 ［報告②］飯塚 大展氏「禅籍抄物における和歌の引用について
—林下曹洞宗における相伝史料を中心にして—」

17:30 終了

8月31日（金）

9:30～10:30 ［報告③］重田 みち氏

「世阿弥の「初心を忘るべからず」と中国三教一致の禅」（音声参加）

10:30～11:30 ［報告④］天野 文雄氏「能と禅（その2）—「諸法実相」をめぐって—」

11:30～12:30 ［報告⑤］恋田 知子氏「物語草子に見る禅—『はいかひ』絵巻続考—」

12:30～13:30 昼食

13:30～14:30 ［報告⑥］高橋 悠介氏「伝白雲慧曉撰『由迷能記』について」

14:30～15:30 ［報告⑦］原田 正俊氏「五山禅林の年中行事と室町殿」

15:30～16:30 ［報告⑧］西山 美香氏「画贊・画題に見る漢故事受容」

16:30～17:00 閉会（天野 文雄）

国際高等研究所 研究プロジェクト
「宗教が文化と社会に及ぼす生命力についての研究－禅をケーススタディとして－」
2012年度第2回研究会（通算第6回）プログラム

日 時：2013年 2月 16日（土） 13:00～17:30
2月 17日（日） 9:00～18:00

場 所：国際高等研究所 216号室（2F）

出席者：(23人)

研究代表者	天野 文雄	国際高等研究所副所長
参加研究者 **	荒木 浩	国際日本文化研究センター研究部教授
	飯塚 大展	駒沢大学仏教学部教授
**	クリスティアン ウィッテルン	京都大学人文科学研究所教授
**	大田 壮一郎	龍谷大学文学部非常勤講師
**	太田 亨	愛媛大学教育学部准教授
**	大谷 節子	神戸女子大学文学部教授
**	川本 慎自	東京大学史料編纂所中世史料部門助教
	恋田 知子	国文学研究資料館機関研究員
**	神津 朝夫	帝塚山大学人文学部非常勤講師
**	鈴木 元	熊本県立大学文学部教授
	高橋 悠介	神奈川県立金沢文庫学芸員
**	中本 大	立命館大学文学部教授
	西山 美香	花園大学大学院仏教学専攻非常勤講師
**	野村 俊一	東北大学大学院工学研究科助教
	原田 正俊	関西大学文学部教授
**	福島 恒徳	花園大学文学部教授

**：スピーカー

話題提供者（ゲストスピーカー）

末木 文美士	国際日本文化研究センター教授
野口 善敬	花園大学国際禅学科教授

その他参加者	岡本 文音	高野山大学客員教授
	中村 健史	京都大学研究員
	長田 あかね	京都造形芸術大学非常勤講師
	藤岡 道子	聖母女学院短期大学教授

プログラム

2月 16日（土）

- 13：00～13：10 開会（天野 文雄）
13：10～14：40 【ゲスト講演】野口 善敬氏「なぜ法系図を重視するのか」
14：40～15：00 休憩
15：00～17：00 【特別企画・座談会@セミナー1室（1F）】
「日本中世の文化と禅－末木文美士氏に聞く－」
17：30 終了

2月 17日（日）

- 9：00～9：40 [報告①] 荒木 浩氏「徒然草と法語」
9：40～10：20 [報告②] クリストゥイアン ウィッテルン氏
「禅における規定と反則に関する一考察」
10：20～10：30 休憩
10：30～11：10 [報告③] 大田 壮一郎氏
「13・14世紀における宗と国家－宗論をめぐって－」
11：10～11：50 [報告④] 太田 亨氏
「日本中世禪琳における杜甫と禅－後期の場合－」
11：50～12：30 [報告⑤] 大谷 節子氏「世阿弥と禅－「山姥」をめぐって－」
12：30～13：20 昼食
13：20～14：00 [報告⑥] 川本 慎自氏
「『中叟和尚偈』にみる東福寺僧と山名時熙の交流」
14：00～14：40 [報告⑦] 神津 朝夫氏「茶の湯と宗教性」
14：40～15：20 [報告⑧] 鈴木 元氏「古今伝受、切紙、禅」
15：20～15：30 休憩
15：30～16：10 [報告⑨] 中本 大氏
「禅籍のゆくえ－『錦繡段』に関するいくつかの問題－」
16：10～16：50 [報告⑩] 野村 俊一氏「中世禅院の社友空間と風景生成」
16：50～17：30 [報告⑪] 福島 恒徳氏「日本禪林における法系と絵画」
18：00 閉会（天野 文雄）